

静岡県月例経済報告

(平成27年1月号)

……平成26年11月を中心とした県内経済のすがた……

No. 465

—静岡県経済産業部—

目 次

I	静岡県経済の概況	1
II	静岡県主要経済指標の概況	4
	・ 需要面	4
	・ 生産面	12
	・ 雇用面	15
	・ その他	18
III	静岡県主要産業の動向	22
IV	データからみた県内主要産業	25

利用にあたって

- 1 本月報は、本県経済の状況について、経済統計及び産業動向をとりまとめたものである。
- 2 本月報は4部から構成されている。
- 3 第1部では、本県経済の概況について経済統計データを中心に述べているが、指標によっては当該月データが未公表のため前月値を用いる場合がある。これらの指標は文中に示している。
- 4 第2部では、本県経済の動向について主要経済指標を用いて、データとグラフで示している。
- 5 第3部では、本県の主要産業動向について簡単にまとめている。
- 6 第4部では、本県の主要産業動向についてデータで示している。
- 7 本月報で用いた ▲はマイナスを表している。
- 8 数字の単位未満は四捨五入することを基本としているが、情報提供元の公表方法に準拠させている。

この「静岡県月例経済報告」は、静岡県経済産業部のインターネット・ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス(URL) <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>

I 静岡県経済の概況

〔本稿は、平成26年11月を中心とした経済統計及び企業ヒアリングをもとに取りまとめている。〕

概況

平成26年11月を中心とした静岡県の景気は、緩やかに回復しつつあるが、このところ弱い動きとなっている。

先行きについては、堅調な設備投資などを背景に、景気回復の動きが確かなものとなることが期待されるものの、個人消費や生産面での弱めの動きと海外経済の動向に注意する必要がある。

雇用情勢は、改善の動きを続けている。

- ・個人消費は、やや弱めの動きとなっている。
- ・設備投資は、持ち直している。
- ・輸出は、持ち直しつつある。
- ・生産は、弱めの動きとなっている。

需要面

◎個人消費は、やや弱めの動きとなっている。

大型小売店販売額(11月)は、百貨店、スーパーがいずれも2か月連続で前年実績を下回ったことから、総額でも2か月連続で前年実績を下回った。

自動車(新車)新規登録台数(11月)は、軽自動車6か月ぶりに前年実績を上回ったものの、乗用車が4か月連続で前年実績を下回ったことから、総数でも8か月連続で前年実績を下回った。

◎住宅建設は、前年を下回った。

新設住宅着工戸数(11月)は、持家が9か月連続、貸家が2か月連続、分譲住宅が4か月ぶりに前年実績を下回ったことから、全体でも8か月連続で前年実績を下回った。

◎公共投資は、前年を下回った。

公共工事請負金額(11月)は、2か月連続で前年実績を下回った。

◎設備投資は、持ち直している。

日銀短観(平成26年12月15日)の26年度設備投資計画は、製造業、非製造業ともに増加する計画となっており、全産業でも増加する計画となっている。

着工建築物床面積(非居住用)(11月)は3か月連続で前年実績を上回った。

◎輸出は、持ち直しつつある。

輸入は、前年を下回った。

輸出総額(11月)は、自動車²が2か月連続、二輪自動車類が5か月連続で前年実績を上回ったものの、エアコンが2か月ぶり、自動車の部分品が5か月に前年実績を下回ったことから、全体でも5か月に前年実績を下回った。

また、輸入総額(11月)は、原動機や自動車の部分品などが前年実績を下回ったことから、全体でも20か月に前年実績を下回った。

なお、輸出入のバランスは、870億円の輸出超過となった。

生産面

◎生産は、弱めの動きとなっている。

鉱工業生産指数(10月)は、化学工業や食料品・たばこ工業などで前年水準を下回ったことから、総合でも4か月連続で前年水準を下回った。また、2か月連続で前月を上回った。

また、産業用大口電力消費量(11月)は、4か月連続で前年実績を下回った。

なお、鉱工業在庫指数(10月)は、総合では6か月連続で前年水準を上回った。

雇用面

◎雇用情勢は、改善の動きを続けている。

有効求人倍率(11月)は1.12倍で、前月を0.02ポイント上回り、11か月連続で1倍を上回った。また、2か月連続で全国値と同水準だった。

雇用保険受給者実人員(11月)は、16か月連続で前年実績を下回った。

また、所定外労働時間指数(10月)は、3か月連続で前年水準を上回った。

その他

◎物価は、前年を上回った。

消費者物価指数(12月)は、総合で102.8となり、前年水準を上回った。

また、前月比は0.2%下落した。

◎金融環境は、貸出残高は前年を上回り、信用保証金額は前年を下回った。

県内金融機関の貸出残高(11月)は、前年同月比3.2%増と前年実績を上回った。

信用保証協会保証金額(11月)は、前年同月比18.6%減と前年実績を下回った。

◎企業倒産は、件数、負債総額ともに前年を下回った。


企業倒産(12月)は、件数は22件、負債総額は前年同月比34.1%減と、いずれも前年実績を下回った。

【 ふじのくに農芸品フェア2015を開催 】

～農芸品を扱う約130ブースが出展する県内最大級の農林水産イベント！～

農林水産関係団体が一体となって、県産農林水産物やその加工品を一堂に集め、魅力を紹介します。県内各地の旬の味覚や特産品に触れ、静岡の魅力をまるごと満喫してください。

● 概要

日時	平成27年2月21日（土）・22日（日）10時～16時	
場所	プラサヴェルデ（沼津市大手町1-1-4 ※沼津駅北口より3分）	
内容	静岡県内の豊かな農林水産物・加工品の展示即売、ご当地グルメ販売、体験コーナー、400点が勢ぞろいする県花の展覧会など、幅広い年代の方々が目と味覚で楽しめる県内最大級の農林水産イベントです。	

● 内容

	項目	内容	会場
農芸品フェア	ふじのくに農芸品販売コーナー	お茶、野菜、くだもの、花、魚や肉など、ふじのくに農芸品とその加工品が大集合。県産の切り花・鉢物約400点が展示される「静岡県花の展覧会」も必見です。	展示イベント施設多目的ホール
	ふじのくに食べ尽くしコーナー	ふじのくに農芸品を使ったご当地グルメが勢揃い！楽しい企画が盛りだくさん。	多目的ホール南側（屋外）
	公開セミナー	農芸品を科学する！聴いて納得“おいしい話”を農業・畜産・水産の研究員が解説。	会議場施設
同時開催	ふじのくに地域食育フェア in 東部	地域の食材や食文化に触れ「食を知ろう！つくろう！楽しもう！」。会場では美味しい体験がいっぱい！	会議場施設
	ふじのくに花の都しずおかフェア2015	花のある楽しい食卓やしずおか花セレクション2015の展示を始め、県産花きを多数使った展示が盛りだくさん。	多目的ホール

● 主催及び連絡先

主催	ふじのくに農芸品フェア実行委員会（静岡県、静岡県農業協同組合中央会、静岡県経済農業協同組合連合会、公益社団法人静岡県茶業会議所、静岡県温室農業協同組合、静岡県椎茸産業振興協議会、静岡県漁業協同組合連合会、静岡県水産加工業協同組合連合会）
問合先	事務局：静岡県経済産業部 農林業局 みかん園芸課 電話：054-221-3299

● 昨年の様子



II 静岡県主要経済指標の概況

需 要 面

1 個人消費

(1) 大型小売店販売額

11月 = 36,376百万円

*前年同月比： 0.9%減

(県内3百貨店、144スーパー合計)

<概況>

11月の大型小売店販売額は36,376百万円で、前年同月比 0.9%減となり、2か月連続で前年実績を下回った。

業態別にみると、百貨店（前年同月比 1.9%減）、スーパー（同 0.6%減）がいずれも2か月連続で前年実績を下回った。

商品別では、飲食料品（同 1.5%増）が7か月連続で前年実績を上回ったものの、衣料品（同 7.0%減）、身の回り品（同 3.3%減）がいずれも2か月連続、家庭用品（同 9.6%減）が8か月連続で前年実績を下回った。

なお、店舗数調整前の前年同月は0.2%減となり、4か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
販売額（百万円）	32,618	35,209	35,536	36,682	35,907	33,764	34,918	36,376
前年同月比（%）	▲ 7.2	▲ 1.5	▲ 1.7	▲ 2.1	0.2	0.8	▲ 0.8	▲ 0.9
うち 百貨店（%）	▲ 15.3	▲ 4.8	▲ 5.6	▲ 4.8	1.6	3.4	▲ 3.7	▲ 1.9
スーパー（%）	▲ 5.3	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 1.4	▲ 0.1	0.2	▲ 0.1	▲ 0.6
(参考1) 全国前年同月比（%）	▲ 6.8	▲ 1.2	▲ 1.8	▲ 0.6	1.6	0.5	0.0	1.2
うち 百貨店（%）	▲ 10.1	▲ 2.1	▲ 2.4	▲ 0.4	2.0	1.7	0.2	1.5
スーパー（%）	▲ 5.1	▲ 0.8	▲ 1.4	▲ 0.7	1.4	▲ 0.1	▲ 0.1	1.0
(参考2) 県前年同月比（店舗数調整前）	▲ 5.2	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 1.0	1.4	2.1	0.0	▲ 0.2

(注) 販売額は店舗数未調整、前年同月比は店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

<商品別前年同月比の推移>

(単位：%)

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
衣 料 品	▲ 14.4	▲ 4.9	▲ 6.6	▲ 6.9	▲ 2.5	3.6	▲ 3.1	▲ 7.0
うち 紳士服・洋品	▲ 12.3	▲ 3.3	▲ 5.9	▲ 6.8	▲ 4.2	5.6	0.6	▲ 7.1
婦人・子供服・洋品	▲ 15.1	▲ 5.2	▲ 6.9	▲ 6.6	▲ 2.7	3.0	▲ 4.8	▲ 6.4
身の回り品	▲ 12.4	▲ 4.4	▲ 9.1	▲ 5.1	▲ 1.7	4.8	▲ 7.9	▲ 3.3
飲 食 料 品	▲ 2.1	2.0	1.4	0.5	0.8	0.9	0.9	1.5
家 庭 用 品	▲ 17.0	▲ 12.2	▲ 9.2	▲ 11.8	▲ 4.1	▲ 9.1	▲ 8.2	▲ 9.6
うち家庭用電気機械器具	▲ 36.8	▲ 31.0	▲ 26.3	▲ 23.4	▲ 23.9	▲ 17.8	▲ 12.7	▲ 15.6

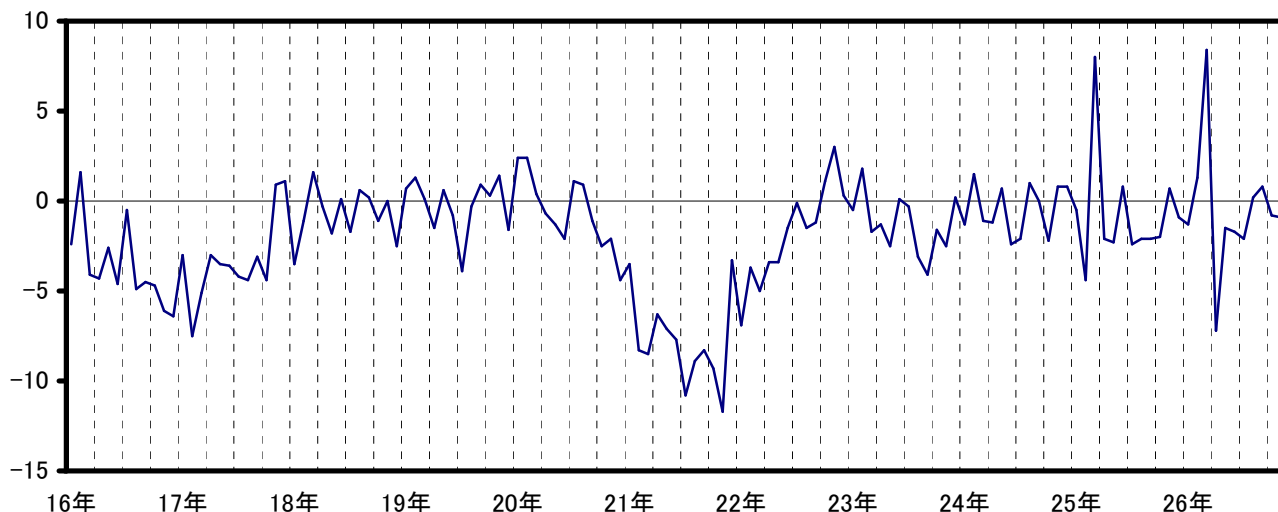
(注) 店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

<過去10年間の推移>

大型小売店販売額前年同月比（%）

<資料>経済産業省



(2) 百貨店販売額

11月 = 6,921百万円

*前年同月比： 3.4%減

(県内3百貨店販売額)

<概況>

11月の県内3百貨店の販売額は6,921百万円で、2か月連続で前年実績を下回った。
 品目別にみると、雑貨（前年同月比 1.1%増）が2か月ぶりに前年実績を上回ったものの、衣料品（同 4.8%減）、身の回り品（同 5.3%減）がいずれも2か月連続、家庭用品（同 5.7%減）、食料品（同 2.3%減）がいずれも3か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
販売額（百万円）	5,124	5,882	6,162	6,785	5,195	5,700	5,986	6,921
前年同月比（%）	▲ 15.9	▲ 5.6	▲ 6.3	▲ 5.6	0.0	1.8	▲ 5.2	▲ 3.4
(参考)全国前年同月比（%）	▲ 12.0	▲ 4.2	▲ 4.6	▲ 2.5	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 2.2	▲ 1.0

(注)販売額は店舗数未調整、前年同月比は店舗数調整済

<資料>県百貨店協会、日本百貨店協会

<品目別前年同月比の推移>

(単位：%)

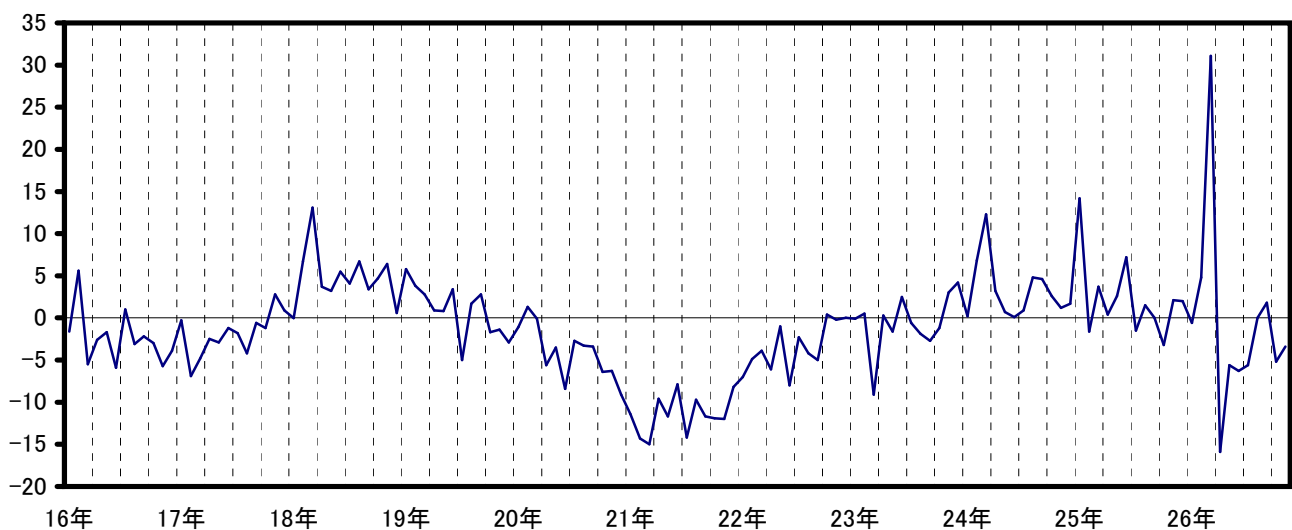
	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
衣料品	▲ 17.9	▲ 2.1	▲ 8.4	▲ 5.9	1.3	3.1	▲ 5.7	▲ 4.8
うち紳士服・洋品	▲ 15.6	0.8	▲ 6.0	▲ 4.5	3.3	3.0	▲ 0.7	▲ 2.0
婦人服・洋品	▲ 16.0	▲ 2.1	▲ 9.3	▲ 6.2	▲ 0.6	4.0	▲ 7.2	▲ 5.4
子供服・洋品	▲ 35.5	▲ 6.5	▲ 8.1	▲ 5.7	6.1	▲ 5.5	▲ 10.1	▲ 4.0
身の回り品	▲ 16.2	▲ 2.5	▲ 12.5	▲ 6.0	▲ 10.0	6.1	▲ 9.5	▲ 5.3
家庭用品	▲ 20.3	▲ 10.8	0.5	▲ 4.9	0.5	▲ 9.3	▲ 11.8	▲ 5.7
食料品	▲ 3.1	▲ 3.4	0.8	▲ 5.2	0.9	▲ 3.1	▲ 0.6	▲ 2.3
雑貨	▲ 30.9	▲ 18.9	▲ 10.5	▲ 5.4	0.4	4.3	▲ 6.0	1.1
うち美術・宝飾・貴金属	▲ 45.4	▲ 39.2	▲ 20.6	▲ 14.1	▲ 4.1	▲ 1.9	▲ 12.5	▲ 5.3

(注)店舗数調整済

<過去10年間の推移>

県内百貨店販売額前年同月比（%）

<資料>県百貨店協会



(3) 自動車(新車)新規登録台数

11月 = 14,149台

*前年同月比： 8.0%減

(乗用車、軽自動車合計)

<概況>

11月の自動車(新車)新規登録台数は14,149台(前年同月比 8.0%減)となり、8か月連続で前年実績を下回った。

車種別にみると、軽自動車(同 2.7%増)が6か月ぶりに前年実績を上回ったものの、乗用車(同 16.7%減)が4か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
登録台数(台)	12,084	12,253	14,761	15,261	11,287	16,904	13,228	14,149
前年同月比(%)	▲ 3.8	▲ 3.8	▲ 3.8	▲ 7.1	▲ 12.4	▲ 12.2	▲ 8.3	▲ 8.0
(参考)全国前年同月比(%)	▲ 5.1	▲ 1.3	0.1	▲ 2.6	▲ 9.5	▲ 3.2	▲ 7.4	▲ 10.2

<資料>県税務課、日本自動車販売協会連合会

<車種別(新車)新規登録台数前年同月比の推移>

(単位：%)

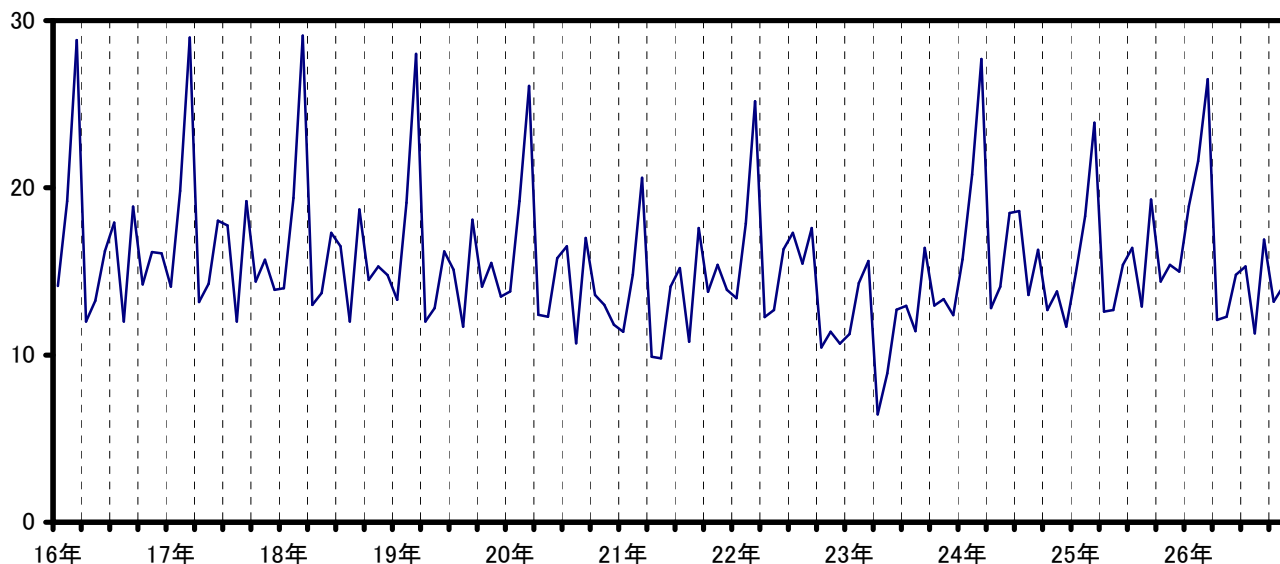
	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全乗用車	▲ 3.8	▲ 3.8	▲ 3.8	▲ 7.1	▲ 12.4	▲ 12.2	▲ 8.3	▲ 8.0
乗用車	▲ 12.7	▲ 7.8	▲ 5.5	1.7	▲ 9.1	▲ 12.5	▲ 11.4	▲ 16.7
軽自動車	4.8	0.4	▲ 2.1	▲ 16.1	▲ 15.9	▲ 11.8	▲ 4.4	2.7

<資料>県税務課

<過去10年間の推移>

自動車(新車)新規登録台数(千台)

<資料>県税務課



(注)全国前年同月比は乗用車+軽乗用車

2 新設住宅着工戸数

11月 = 1,756戸

*前年同月比： 26.2%減

<概況>

11月の新設住宅着工戸数は1,756戸で、前年同月比 26.2%減となり、8か月連続で前年実績を下回った。

利用関係別にみると、持家（前年同月比 22.8%減）が9か月連続、貸家（同 24.3%減）が2か月連続、分譲住宅（同 38.7%減）が4か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

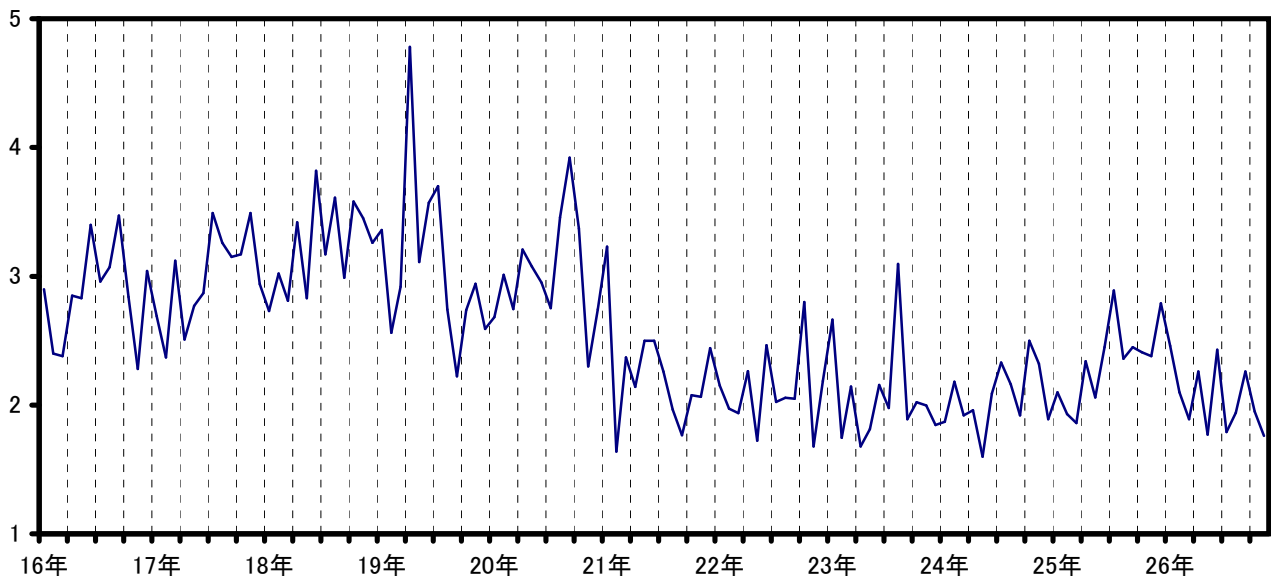
	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
戸数（戸）	2,261	1,774	2,431	1,793	1,943	2,261	1,953	1,756
前年同月比（%）	▲ 3.2	▲ 13.8	▲ 0.8	▲ 38.0	▲ 17.6	▲ 7.5	▲ 18.9	▲ 26.2
うち持家（%）	▲ 13.3	▲ 29.4	▲ 16.1	▲ 39.8	▲ 26.1	▲ 23.2	▲ 22.7	▲ 22.8
貸家（%）	▲ 9.4	▲ 5.2	32.1	▲ 31.9	▲ 14.4	3.2	▲ 22.8	▲ 24.3
分譲住宅（%）	61.1	21.4	▲ 6.7	▲ 39.4	12.7	46.3	15.0	▲ 38.7
(参考)全国前年同月比（%）	▲ 3.3	▲ 15.0	▲ 9.5	▲ 14.1	▲ 12.5	▲ 14.3	▲ 12.3	▲ 14.3

<資料>県住まいづくり課

<過去10年間の推移>

新設住宅着工戸数(千戸)

<資料>県住まいづくり課



3 公共工事請負金額

11月 = 14,446百万円

*前年同月比：15.2%減

(建設保証会社保証実績)

<概況>

11月の公共工事の請負金額(工事場所ベース)は14,446百万円で、前年同月比15.2%減となり、2か月連続で前年実績を下回った。また、取扱い件数(工事場所ベース)は685件で、前年同月比19.1%減となり、2か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
金額(百万円)	39,604	34,565	30,715	29,697	23,140	41,715	21,030	14,446
前年同月比(%)	▲7.9	14.3	6.7	▲4.3	▲0.9	12.8	▲22.1	▲15.2
年度累計前年同月比(%)	▲7.9	1.3	2.8	1.1	0.8	3.1	0.0	▲1.1
件数(件)	419	472	732	876	710	1,314	854	685
前年同月比(%)	▲30.4	▲21.6	16.2	9.5	▲6.3	15.7	▲13.3	▲19.1
年度累計前年同月比(%)	▲30.4	▲26.0	▲11.5	▲5.1	▲5.4	▲0.1	▲2.5	▲4.7

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<発注者別請負金額前年同月比の推移>

(単位:%)

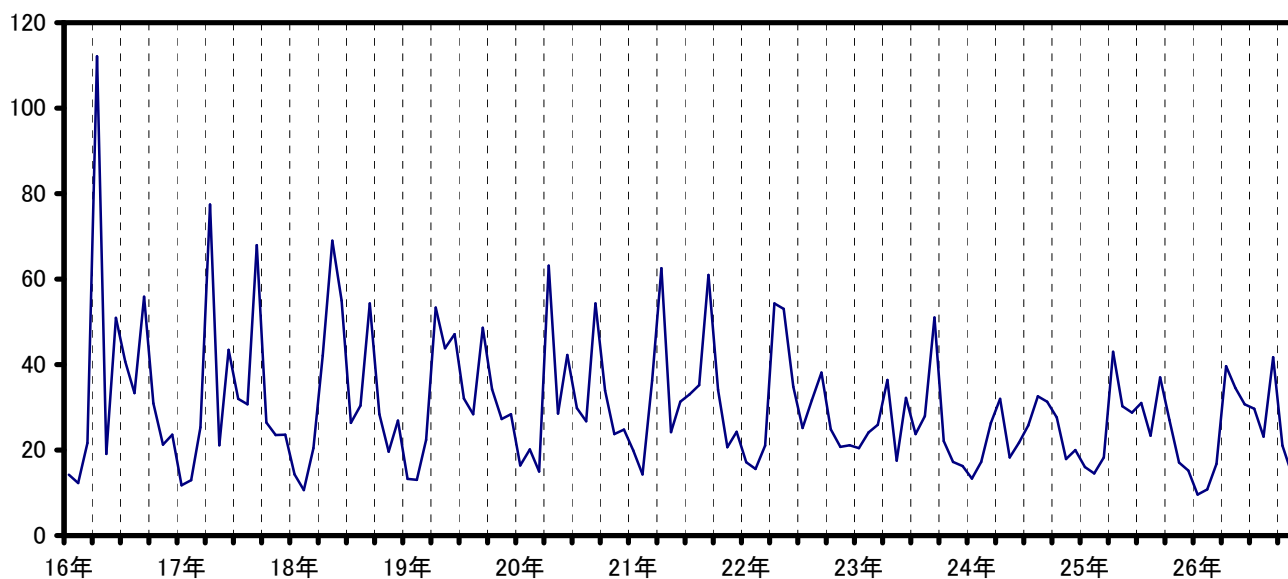
	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
国	▲42.7	▲28.5	20.4	▲18.3	14.6	▲16.5	▲24.2	206.1
独立行政法人等	2,722.6	147.5	▲23.0	▲43.2	▲7.5	▲50.7	▲92.2	▲4.4
県	▲29.7	74.8	17.0	▲24.9	▲12.8	37.1	▲24.3	▲31.0
市町	6.0	▲33.9	▲7.6	25.6	0.8	17.2	▲9.3	▲27.7
地方公社	—	—	—	—	90.8	▲76.1	67.1	—
その他	882.9	66.0	42.8	▲47.0	9.7	▲1.9	▲18.2	59.8

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<過去10年間の推移>

公共工事請負金額(十億円)

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店



4 設備投資

<概況>

平成25年度の設備投資（実績）は、製造業（前年度比 10.9%増）、非製造業（同 21.5%増）ともに増加となり、全産業（同 15.3%増）でも増加となった。

平成26年度の設備投資（計画）は、製造業（前年度比 30.8%増）、非製造業（同 3.5%増）ともに増加する計画となっており、全産業（同 18.9%増）でも増加する計画となっている。

11月の着工建築物床面積（非居住用）は156,017㎡で、前年同月比 101.5%増となり、3か月連続で前年実績を上回った。

<企業短期経済観測調査結果>

（前年度比%）

		25年度 （実績）	26年度 （計画）	前回調査 比修正率	上期	前回調査 比修正率	下期 （計画）	前回調査 比修正率	
全 産 業	県	15.3	18.9	▲ 1.4	13.4	▲ 8.6	22.6	3.5	
	全国	5.6	5.5	1.2	3.8	▲ 6.3	6.8	8.1	
	製 造 業	県	10.9	30.8	▲ 1.8	14.2	▲ 8.7	42.0	2.4
		全国	0.5	12.2	0.3	8.4	▲ 9.4	15.3	9.4
	非 製 造 業	県	21.5	3.5	▲ 0.9	12.3	▲ 8.4	▲ 2.3	5.6
		全国	8.2	2.2	1.7	1.6	▲ 4.6	2.7	7.5

<資料>日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果（平成26年12月調査）」

日本銀行調査統計局「全国企業短期経済観測調査」（平成26年12月調査）」

<最近の動き>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
着工建築物床面積（非居住用）（㎡）	139,463	127,122	175,503	141,039	100,555	189,786	173,946	156,017
前年同月比（%）	9.9	▲ 38.8	5.1	▲ 3.2	▲ 41.0	24.8	126.4	101.5
（参考）全国前年同月比（%）	▲ 4.2	▲ 11.6	4.4	▲ 2.5	▲ 2.0	▲ 20.4	13.3	▲ 10.9

（注）着工建築物床面積は公共と民間の合計のうち、非居住用

<資料>国土交通省

<参考 県内企業の業況判断D. I. >

		26年6月	26年9月	26年12月	27年3月 （予測）
全 産 業		▲ 6	▲ 3	▲ 3	▲ 7
	製 造 業	▲ 3	2	5	▲ 4
	非 製 造 業	▲ 8	▲ 7	▲ 2	▲ 11
（参考） 全国 ・ 全産業		7	4	5	1

（注）業況判断D. I. : 「良い」-「悪い」回答社数構成比%ポイント

<資料> 日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果（平成26年12月調査）」

5 輸出

11月 = 162,540百万円

*前年同月比： 0.6%減

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

11月の清水税関支署管内の輸出総額は162,540百万円で、前年同月比 0.6%減となり、5か月ぶりに前年実績を下回った。

主要な品目別にみると、原動機（前年同月比 19.3%増）が4か月連続、自動車（同 26.9%増）が2か月連続、二輪自動車類（同 26.9%増）が5か月連続、科学光学機器（同 4.1%増）が6か月連続で前年実績を上回ったものの、エアコン（同 14.9%減）が2か月ぶり、自動車の部分品（同 13.5%減）が5か月ぶりに前年実績を下回った。

地域別にみると、米国向け（同 5.7%増）が5か月連続で前年実績を上回ったものの、アジア向け（同 4.3%減）が5か月ぶり、EU向け（同 6.9%減）が6か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
輸出総額(百万円)	180,425	160,484	158,152	174,561	154,661	168,706	175,584	162,540
前年同月比(%)	0.0	▲ 0.8	▲ 5.1	7.6	1.2	5.3	5.3	▲ 0.6

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
原動機	26.3	12.1	1.8	0.0	3.7	9.0	5.4	19.3
エアコン	44.8	23.8	22.2	9.2	0.8	▲ 12.3	39.3	▲ 14.9
自動車	▲ 42.8	▲ 21.7	▲ 54.4	▲ 25.6	▲ 11.2	▲ 14.6	29.0	26.9
自動車の部分品	6.2	▲ 6.3	▲ 4.8	11.7	16.9	12.4	7.3	▲ 13.5
二輪自動車類	▲ 12.3	▲ 21.2	▲ 1.2	24.9	1.1	28.6	11.3	26.9
科学光学機器	▲ 2.9	▲ 0.8	11.7	10.8	9.4	6.2	3.6	4.1

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
アジア	▲ 11.3	▲ 11.9	▲ 4.2	7.6	0.3	6.3	0.9	▲ 4.3
米国	9.2	▲ 2.0	▲ 2.6	22.9	12.9	8.0	21.7	5.7
EU	7.4	31.2	▲ 4.8	▲ 13.3	▲ 10.2	▲ 4.9	▲ 13.5	▲ 6.9

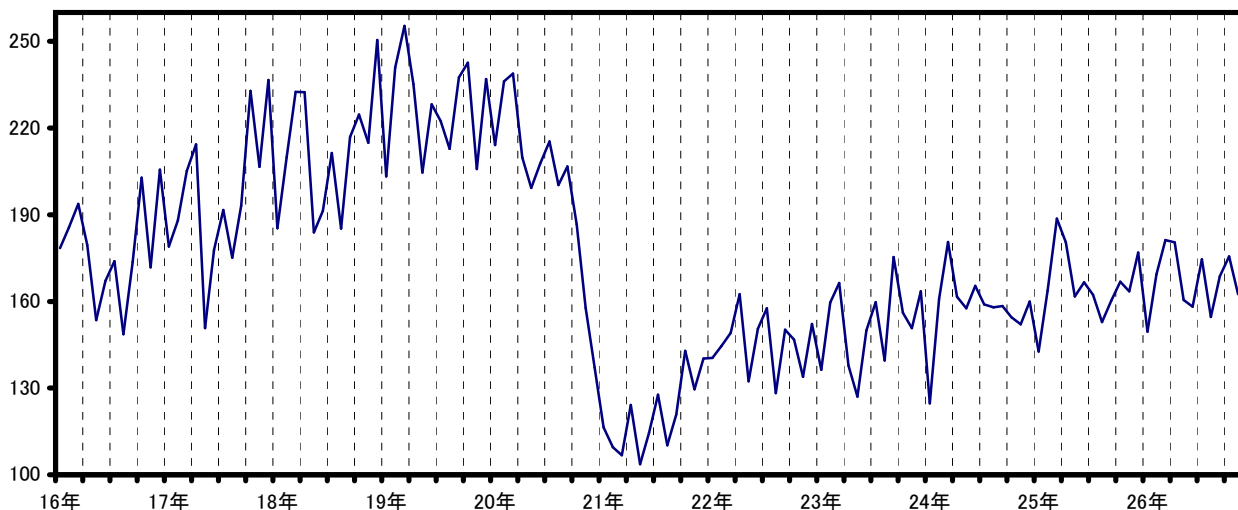
<資料>清水税関支署

(注)管内とは、清水港(焼津、沼津、浜松、興津の各出張所及び下田監視所含む)、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4つをいう。なお、数値は、通関手続きが行われた金額である。輸入も同様。

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸出額(十億円)

<資料>清水税関支署



6 輸入

11月 = 75,548百万円

*前年同月比： 1.4%減

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

11月の清水税関支署管内の輸入総額は75,548百万円で、前年同月比 1.4%減となり、20か月ぶりに前年実績を下回った。

主要な品目別にみると、魚介類（前年同月比 2.9%増）が7か月連続で前年実績を上回ったものの、木材（同 13.2%減）、パルプ（同 1.6%減）がいずれも3か月ぶり、紙類及び同製品（同 11.0%減）が15か月ぶり、原動機（同 67.2%減）、自動車の部分品（同 18.4%減）がいずれも8か月連続で前年実績を下回った。

地域別では、EUから（同 12.9%増）が13か月連続で前年実績を上回ったものの、アジアから（同 0.4%減）、米国から（同 30.7%減）がいずれも2か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
輸入総額(百万円)	88,767	81,375	87,394	81,100	78,737	87,976	88,347	75,548
前年同月比(%)	11.9	1.1	15.2	3.7	5.3	21.4	7.6	▲1.4

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
魚介類	▲11.8	0.3	20.7	7.8	32.1	38.9	4.6	2.9
木材	27.7	▲5.2	16.1	3.1	▲29.1	1.3	23.2	▲13.2
パルプ	10.3	▲1.3	20.0	31.3	▲41.5	45.6	9.9	▲1.6
紙類及び同製品	94.5	49.6	71.3	12.3	27.1	33.9	15.6	▲11.0
原動機	▲1.2	▲7.1	▲30.9	▲77.6	▲73.7	▲73.9	▲67.7	▲67.2
自動車の部分品	▲15.9	▲15.8	▲8.0	▲9.9	▲15.7	▲6.3	▲12.1	▲18.4

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

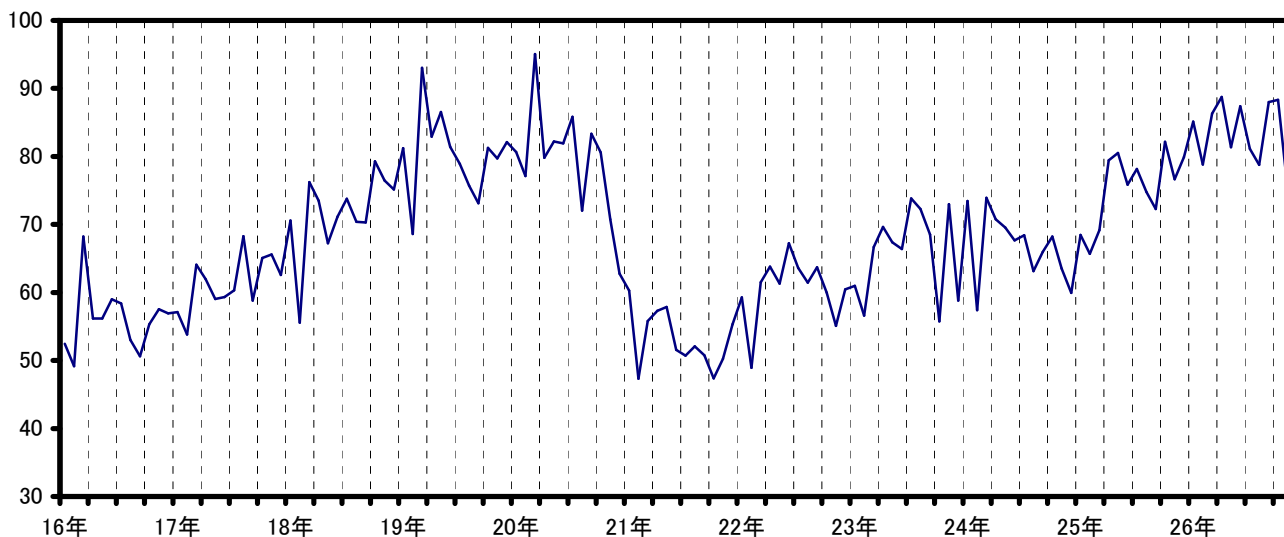
	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
アジア	11.0	1.1	12.7	3.4	▲8.6	18.4	▲2.8	▲0.4
米国	11.5	5.6	9.0	▲22.8	20.6	32.7	▲6.4	▲30.7
EU	18.2	22.2	33.6	21.8	16.2	72.7	41.3	12.9

<資料>清水税関支署

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸入額(十億円)

<資料>清水税関支署



生 産 面

1 生 産

(1) 産業用大口電力消費量

11月 = 984,002千kWh

*前年同月比 2.3%減

(東京電力、中部電力合計)

<概 況>

11月の産業用大口電力消費量は984,002千kWhで、前年同月比 2.3%減となり、4か月連続で前年実績を下回った。

産業別にみると、一般機械（前年同月比 6.4%減）、電気機械（同 0.7%減）、輸送機械（同 4.7%減）がいずれも4か月連続、化学（同 0.6%減）が2か月ぶり、パルプ・紙・紙加工品（同 0.6%減）が3か月ぶり、食品（同 1.3%減）が5か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
消費量(千kWh)	987,606	988,439	1,054,518	1,121,830	997,227	1,050,479	1,039,590	984,002
前年同月比(%)	1.9	0.6	1.2	0.1	▲4.5	▲2.2	▲2.3	▲2.3
全国10社前年同月比(%)	0.8	0.0	▲0.1	▲1.1	▲2.1	▲1.5	▲2.3	▲1.2

*産業用大口電力消費量=契約電力 500kW以上

<資料>東京電力、中部電力、電気事業連合会

<県内産業別大口電力消費量前年同月比の推移>

(単位：%)

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
一般機械工業	4.5	▲1.8	4.3	1.1	▲5.4	▲4.7	▲4.3	▲6.4
電気機械工業	0.8	▲0.1	2.5	1.5	▲3.2	▲1.0	▲1.0	▲0.7
輸送機械工業	▲0.4	0.7	2.6	0.0	▲5.2	▲3.5	▲4.9	▲4.7
化学工業	1.3	10.4	3.0	▲1.3	▲3.2	▲1.9	1.5	▲0.6
パルプ・紙・紙加工品工業	5.7	3.0	4.4	5.8	▲3.7	1.2	2.2	▲0.6
食品工業	3.8	3.1	2.5	▲1.7	▲3.7	▲4.0	▲4.7	▲1.3

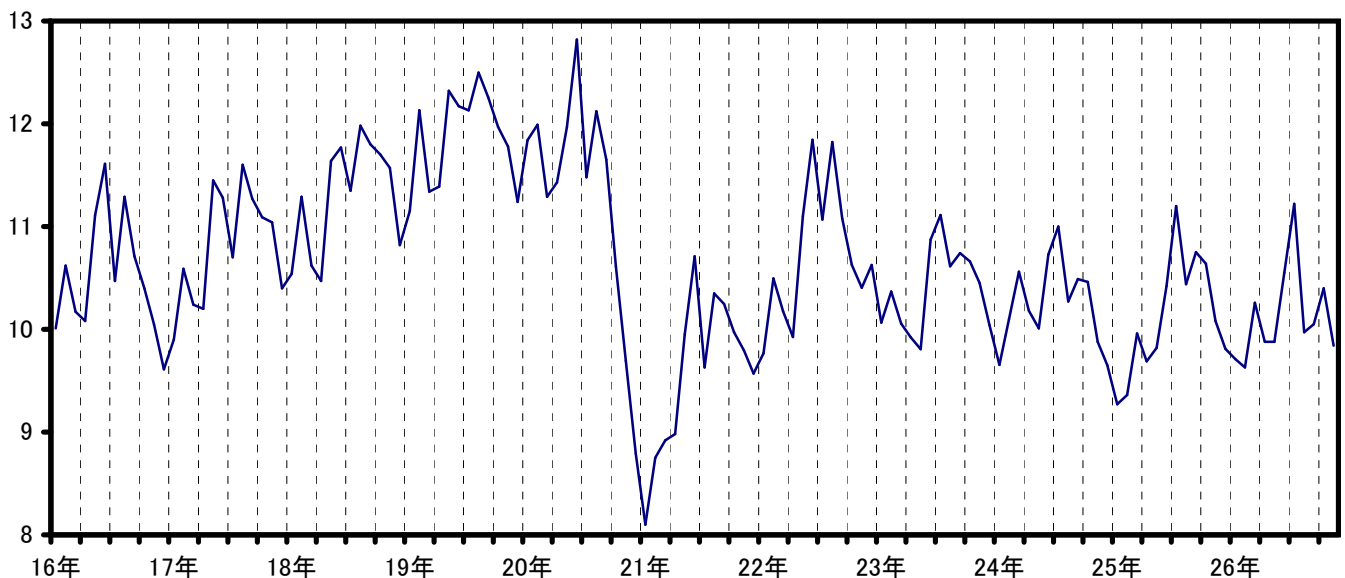
*産業用大口電力消費量=契約電力 500kW以上

<資料>東京電力、中部電力

<過去10年間の推移>

産業用大口電力消費量(億kWh)

<資料>東京電力、中部電力



(2) 鉱工業生産指数

10月 = 93.2

(平成22年=100、鉱工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 2.0%増

*前年同月比(原指数) : 4.5%減

<概況>

10月の鉱工業生産指数(総合)は93.2(季節調整済指数)で、前月比2.0%増となり、2か月連続で前月を上回った。また、前年同月比(原指数)は4.5%減と4か月連続で前年水準を下回った。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比13.5%増)が2か月連続で前年水準を上回ったものの、電気機械(同0.4%減)が2か月ぶり、輸送機械(同4.3%減)が4か月連続、化学(同19.6%減)が7か月連続、パルプ・紙・紙加工品(同2.4%減)が3か月連続、食料品・たばこ(同7.9%減)が5か月連続で前年水準を下回った。

<最近の動き>

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
指数	102.7	101.5	95.6	92.0	94.3	90.5	91.4	93.2
前月比(%)	2.5	▲1.2	▲5.8	▲3.8	2.5	▲4.0	1.0	2.0
前年同月比(%)	9.2	1.5	1.9	1.3	▲1.7	▲4.3	▲0.4	▲4.5
(参考)全国前年同月比(%)	7.0	4.1	0.8	3.2	▲0.9	▲2.9	0.6	▲1.0

(注)平成22年=100、鉱工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

<県内業種別鉱工業生産指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
はん用・生産用・業務用機械工業	15.7	10.0	3.9	11.4	17.8	▲4.7	36.6	13.5
電気機械工業	21.4	14.3	0.4	▲0.4	▲4.9	▲11.0	1.3	▲0.4
輸送機械工業	7.1	▲3.2	7.2	6.6	▲2.8	▲2.0	▲6.0	▲4.3
化学工業	24.8	▲9.3	▲11.6	▲5.4	▲16.3	▲5.2	▲5.8	▲19.6
パルプ・紙・紙加工品工業	5.8	2.9	2.7	1.2	6.5	▲9.2	▲0.2	▲2.4
食料品・たばこ工業	▲2.0	3.3	0.6	▲9.7	▲3.7	▲6.3	▲8.8	▲7.9

(注)平成22年=100、鉱工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

鉱工業生産指数(総合、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



(3) 鉱工業在庫指数

10月 = 103.6

(平成22年=100、鉱工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 2.8%減

*前年同月比(原指数) : 0.9%増

<概況>

10月の鉱工業在庫指数(総合)は103.6(季節調整済指数)で、前月比は2.8%減と4か月連続で前月を下回った。また、前年同月比(原指数)は0.9%増と6か月連続で前年水準を上回った。なお、在庫動向を在庫循環図で見ると、今月は「在庫調整局面(景気後退期)」に該当する。業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比1.9%減)が7か月ぶり、輸送機械(同6.8%減)が4か月連続、化学(同2.8%減)が6か月ぶり、パルプ・紙・紙加工品(同4.6%減)が2か月連続で前年水準を下回ったものの、電気機械(同35.5%増)が10か月連続、食料品・たばこ(同8.4%増)が3か月連続で前年水準を上回った。

<最近の動き>

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
指数	106.2	102.3	108.9	113.3	112.3	110.1	106.6	103.6
前月比(%)	2.5	▲3.7	6.5	4.0	▲0.9	▲2.0	▲3.2	▲2.8
前年同月比(%)	▲0.6	▲3.3	4.8	8.0	6.3	5.0	1.3	0.9
(参考)全国前年同月比(%)	▲1.0	▲1.9	0.8	2.7	2.8	4.7	3.9	3.9

(注)平成22年=100、鉱工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

<県内業種別鉱工業在庫指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
はん用・生産用・業務用機械工業	▲2.5	2.7	7.2	8.7	7.8	0.7	2.1	▲1.9
電気機械工業	19.5	20.2	19.3	25.4	36.0	35.4	33.5	35.5
輸送機械工業	▲16.2	▲40.8	0.7	12.1	▲13.6	▲5.2	▲18.5	▲6.8
化学工業	13.1	▲1.2	12.8	25.1	28.4	6.3	9.4	▲2.8
パルプ・紙・紙加工品工業	▲15.1	▲7.1	▲1.4	0.2	6.0	3.2	▲1.1	▲4.6
食料品・たばこ工業	▲13.7	1.8	▲6.8	1.0	▲8.6	9.2	9.0	8.4

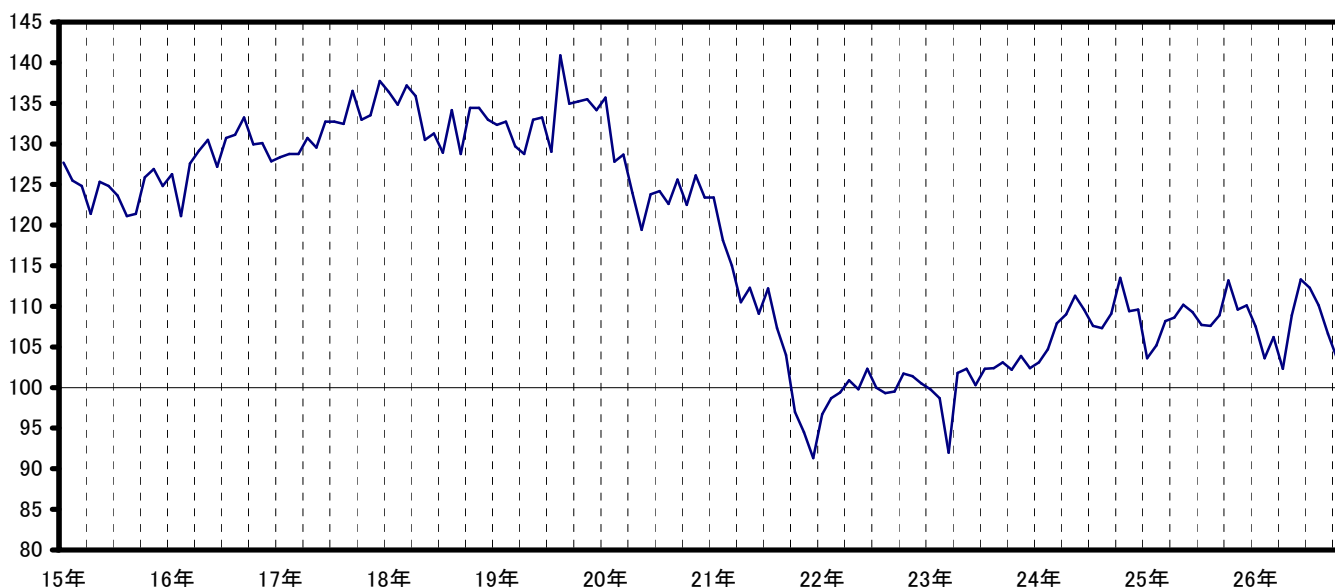
(注)平成22年=100、鉱工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

鉱工業在庫指数(総合、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



雇 用 面

1 雇 用

(1) 有効求人倍率

11月 = 1.12倍

*前月比（季節調整値）：0.02ポイント増

（季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む）

<概況>

11月の有効求人倍率（季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む）は1.12倍となり、前月を0.02ポイント上回った。また、2か月連続で全国値と同水準だった。

新規求人（学卒、パートタイムを除く）（前年同月比7.5%増）は17か月連続で前年実績を上回った。

これを産業別にみると、運輸業・郵便業（同8.2%減）、サービス業（他に分類されないもの）（同3.5%減）で前年実績を下回ったものの、建設業（同3.5%増）、製造業（同12.1%増）、情報通信業（同19.1%増）、卸売業・小売業（同49.1%増）、医療・福祉（同13.5%増）で前年実績を上回った。

<最近の動き>

（単位：倍）

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
県	1.05	1.07	1.08	1.06	1.08	1.08	1.10	1.12
全 国	1.08	1.09	1.10	1.10	1.10	1.09	1.10	1.12

（注）季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む

<資料>厚生労働省

<産業別新規求人前年同月比の推移>

（単位：%）

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
建 設 業	26.2	17.8	16.8	0.5	8.6	2.9	3.1	3.5
製 造 業	33.7	32.7	38.7	8.9	10.9	18.1	8.2	12.1
情 報 通 信 業	4.5	57.6	128.1	8.4	61.8	71.3	27.2	19.1
運 輸 業 ・ 郵 便 業	17.4	22.0	22.9	23.7	12.1	10.4	8.1	▲ 8.2
卸 売 業 ・ 小 売 業	▲ 5.4	▲ 14.4	12.4	33.9	48.0	36.5	1.7	49.1
医 療 ・ 福 祉	25.0	3.4	32.0	28.9	7.7	22.1	24.0	13.5
サービス業（他に分類されないもの）	61.7	48.8	30.5	11.4	11.2	38.4	▲ 1.1	▲ 3.5
合 計	22.8	14.9	29.1	8.5	12.6	19.0	11.5	7.5

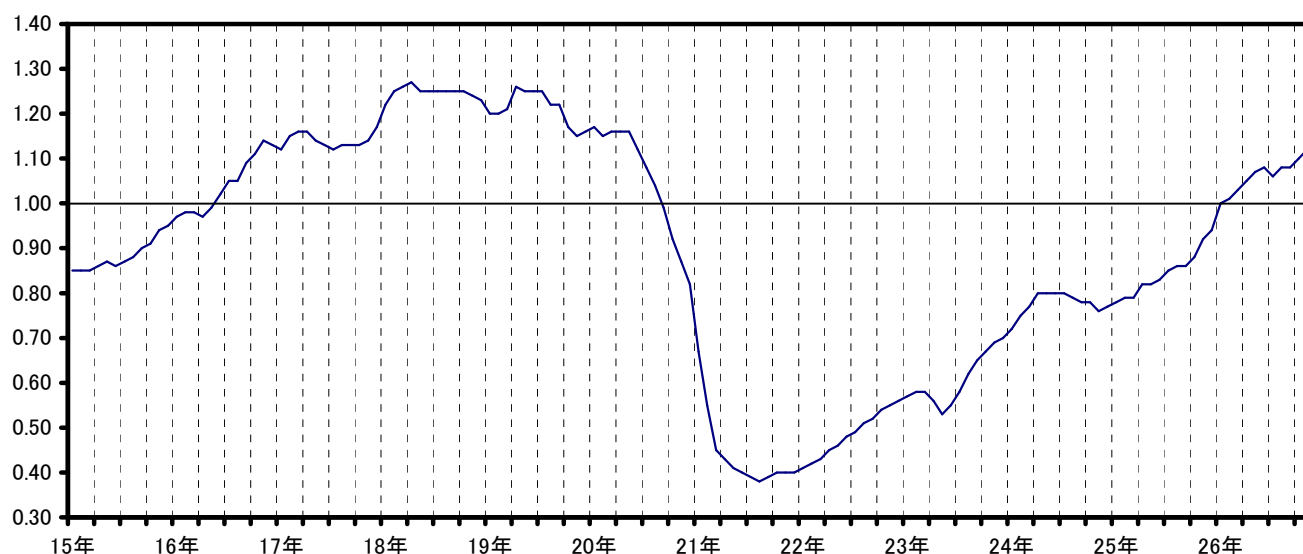
（注）学卒、パートタイムを除く

<資料>厚生労働省

<過去10年間の推移>

有効求人倍率（学卒を除き、パートタイムを含む）（倍）

<資料>厚生労働省



(2) 雇用保険受給者実人員

11月 = 14,160人

*前月比: 9.5%減

*前年同月比: 8.2%減

<概況>

11月の雇用保険受給者実人員は14,160人で、前月比は9.5%減と2か月ぶりに前月を下回った。また、前年同月比は8.2%減と16か月連続で前年実績を下回った。

完全失業率(全国)は3.5%で、前月と同水準だった。

静岡県(平成26年7~9月)の完全失業率は2.7%で、前期(26年4~6月)から0.2ポイント改善した。

<最近の動き>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
実人員(人)	13,617	15,086	15,274	15,818	15,612	15,544	15,653	14,160
前月比(%)	2.4	10.8	1.2	3.6	▲1.3	▲0.4	0.7	▲9.5
前年同月比(%)	▲17.2	▲17.1	▲15.7	▲16.3	▲13.5	▲9.7	▲6.9	▲8.2
(参考)全国前年同月比(%)	▲17.7	▲16.3	▲12.4	▲13.2	▲12.9	▲8.8	▲10.4	▲11.2

<資料>厚生労働省

<参考 完全失業率(全国)の推移>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
完全失業率(全国)(%)	3.6	3.5	3.7	3.8	3.5	3.6	3.5	3.5

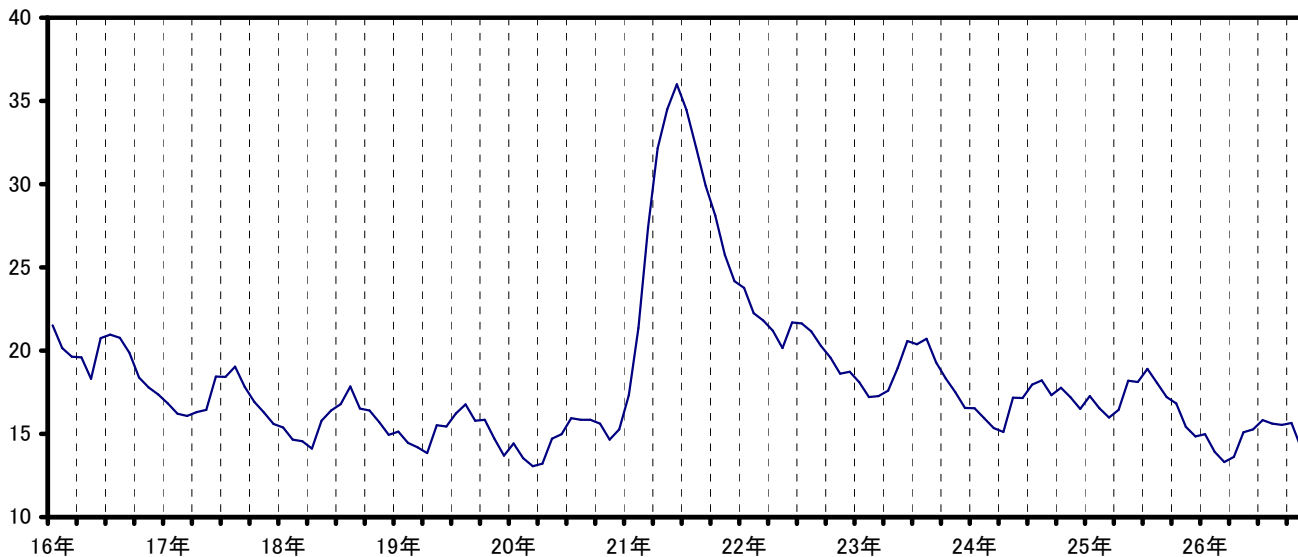
(注)季節調整値

<資料>総務省統計局

<過去10年間の推移>

雇用保険受給者実人員(千人)

<資料>厚生労働省



(3) 所定外労働時間指数

10月 = 102.2

*前月比(季節調整済指数): 0.1%増

(平成22年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、季節調整済) *前年同月比(原指数) : 1.5%増

<概況>

10月の所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、調査産業計)は102.2(季節調整済指数)で、前月比0.1%増となった。また、前年同月比(原指数)は1.5%増となり、3か月連続で前年水準を上回った。

業種別にみると、建設業(前年同月比22.4%減)が2か月連続、運輸業・郵便業(同0.5%減)が6か月連続で前年水準を下回ったものの、情報通信業(同70.1%増)が6か月連続、卸売業・小売業(同1.4%増)、医療・福祉(同10.6%増)がいずれも3か月連続、その他のサービス業(同5.7%増)が15か月連続で前年水準を上回った。

<最近の動き>

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
指数	112.0	107.7	98.8	101.2	95.7	102.4	102.1	102.2
前月比(%)	3.3	▲3.8	▲8.3	2.4	▲5.4	7.0	▲0.3	0.1
前年同月比(%)	18.1	10.0	4.9	4.7	▲1.6	3.1	4.7	1.5
(参考)全国前年同月比(%)	7.2	5.4	3.3	2.5	1.6	0.0	0.8	0.0

*平成22年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、指数:季節調整済指数、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<県内業種別所定外労働時間指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
建設業	▲1.8	13.8	9.7	0.7	▲9.3	3.9	▲14.9	▲22.4
製造業	19.8	9.3	6.4	3.0	▲1.2	6.9	1.8	0.0
情報通信業	11.6	▲19.6	31.1	6.2	6.9	48.5	48.1	70.1
運輸業・郵便業	20.0	10.3	▲3.1	▲9.9	▲1.1	▲7.2	▲2.1	▲0.5
卸売業・小売業	14.3	12.8	▲9.8	0.0	0.0	2.7	4.3	1.4
医療・福祉	15.1	12.8	8.6	23.6	▲1.7	1.8	5.2	10.6
その他のサービス業	25.0	25.9	20.4	14.4	12.1	11.1	6.9	5.7
調査産業計	18.1	10.0	4.9	4.7	▲1.6	3.1	4.7	1.5

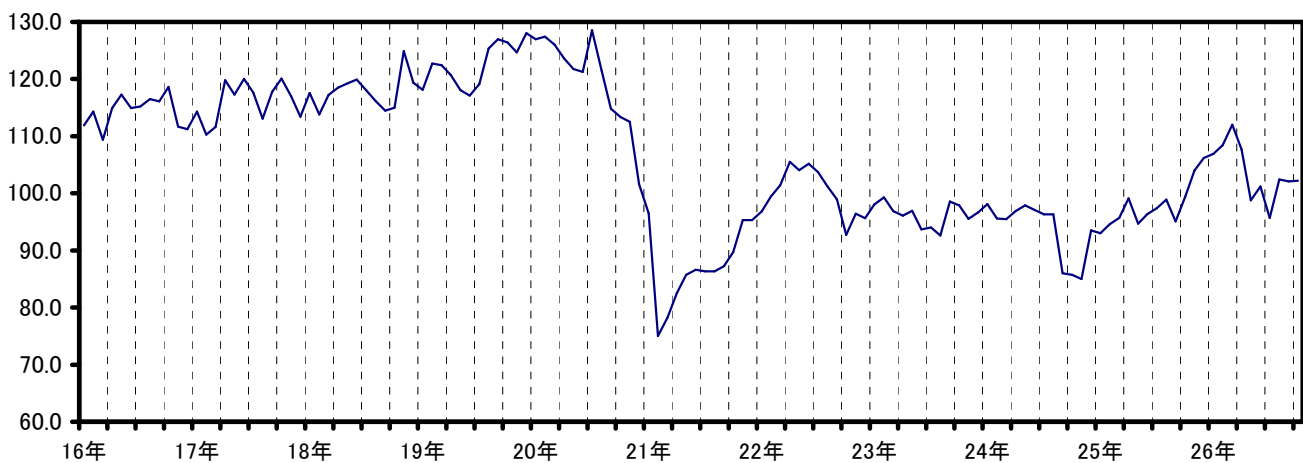
*平成22年=100、事業所規模30人以上、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



そ の 他

1 物 価

(1) 国内企業物価指数

12月 = 104.8

*前月比: 0.4%下落

*前年同月比: 1.9%上昇

(平成22年=100)

<概況>

12月の国内企業物価指数は104.8となり、前月比は0.4%の下落となった。また、前年同月比は1.9%の上昇となった。

<最近の動き>

	26年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
国内企業物価指数	106.0	106.2	106.6	106.4	106.4	105.5	105.2	104.8
前月比 (%)	0.3	0.2	0.4	▲0.2	0.0	▲0.8	▲0.3	▲0.4
前年同月比 (%)	4.3	4.5	4.4	3.9	3.6	2.9	2.6	1.9

*平成22年=100

<資料>日本銀行

(2) 消費者物価指数(総合)

12月 = 102.8

*前月比: 0.2%下落

*前年同月比: 2.1%上昇

(平成22年=100)

<概況>

12月の消費者物価指数(総合)は102.8となり、前月比は0.2%の下落となった。また、前年同月比は2.1%の上昇となった。

<最近の動き>

	26年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
消費者物価指数	103.5	103.5	103.6	103.7	103.9	103.5	103.0	102.8
前月比 (%)	0.5	0.0	0.1	0.1	0.2	▲0.4	▲0.5	▲0.2
前年同月比 (%)	3.8	3.9	3.8	3.6	3.5	3.0	2.5	2.1

*平成22年=100

<資料>県統計調査課

2 金 融

(1) 県内金融機関貸出残高

11月 = 131,751億円

*前月比: 0.5%増

*前年同月比: 3.2%増

(銀行、信用金庫)

<概況>

11月末の県内の銀行と信用金庫の貸出残高は131,751億円で、前月比0.5%増、前年同月比は3.2%増となった。

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
貸出残高(億円)	129,093	129,340	130,174	130,472	130,566	132,656	131,113	131,751
前月比 (%)	▲1.7	0.2	0.6	0.2	0.1	1.6	▲1.2	0.5
前年同月比 (%)	3.1	3.2	2.4	3.2	2.7	2.9	3.1	3.2

<資料>日本銀行静岡支店

(2) 貸出約定金利

11月 = 2.126%

*前月差: 0.002ポイント増

*前年同月差: 0.044ポイント増

(県内地銀4行総平均)

<概況>

11月の県内地銀4行総平均の貸出約定金利(総合)は2.126%で、前月から0.002ポイントのプラスとなった。なお、前年同月差は0.044ポイントのプラスとなった。

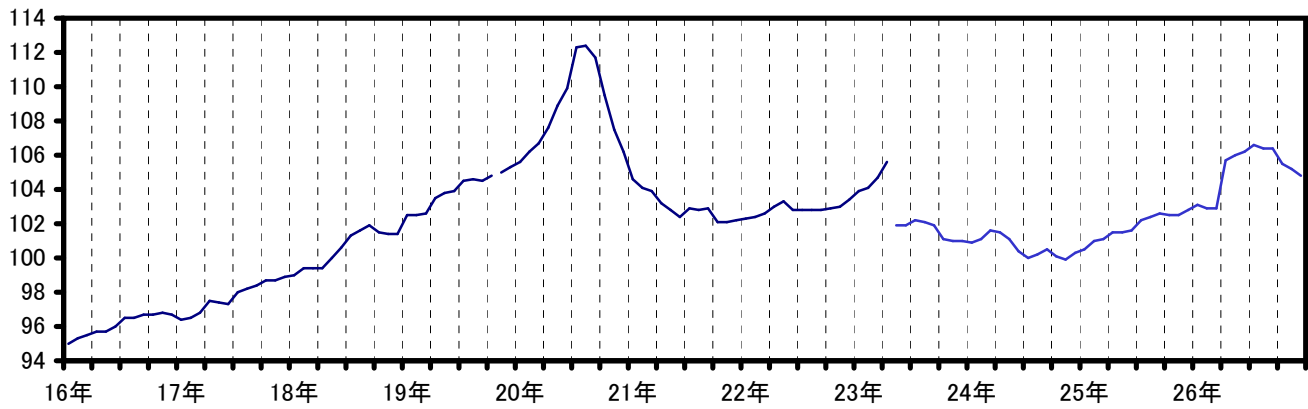
	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
貸出約定金利 (%)	2.098	2.093	2.076	2.092	2.112	2.109	2.124	2.126
前月差(ポイント)	0.018	▲0.005	▲0.017	0.016	0.020	▲0.003	0.015	0.002
前年同月差(ポイント)	▲0.008	▲0.009	▲0.005	0.002	0.030	0.043	0.042	0.044

<資料>日本銀行静岡支店

<過去10年間の推移>

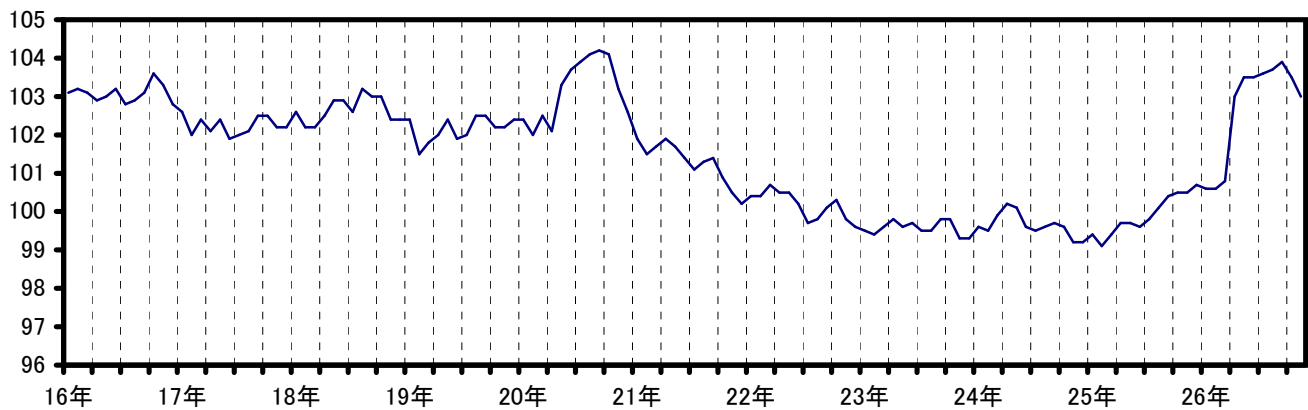
国内企業物価指数(平成22年=100)

<資料>日本銀行



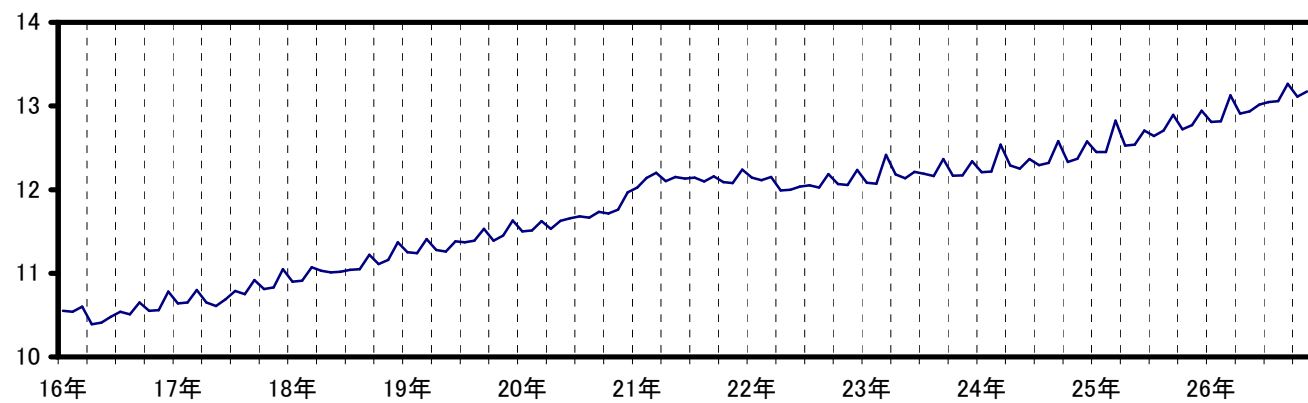
消費者物価指数(平成22年=100)

<資料>県統計調査課



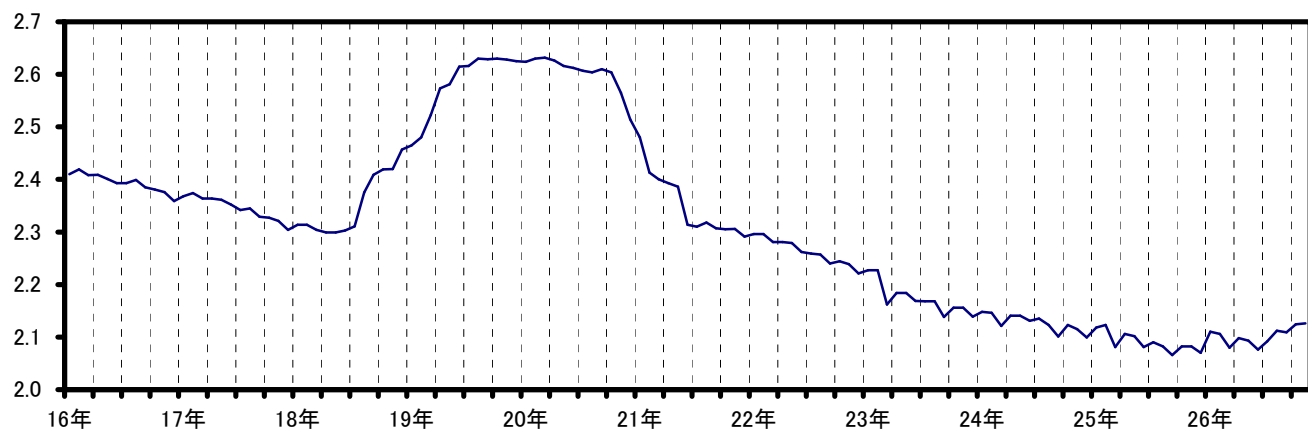
県内金融機関貸出残高(兆円)

<資料>日本銀行静岡支店



県内地銀平均貸出約定金利(%)

<資料>日本銀行静岡支店



(3) 信用保証協会保証金額**11月 = 21,189百万円**

*前年同月比： 18.6%減

<概況>

11月の保証承諾は、金額が21,189百万円（前年同月比 18.6%減）と25か月連続で前年実績を下回り、件数は2,165件（同 19.5%減）と41か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
保証金額（百万円）	17,119	22,369	25,478	25,588	21,610	26,540	20,926	21,189
前年同月比（%）	▲ 18.6	▲ 9.8	▲ 10.5	▲ 9.2	▲ 15.6	▲ 12.7	▲ 11.9	▲ 18.6
保証件数（件）	1,937	2,347	2,710	2,735	2,290	2,827	2,206	2,165
前年同月比（%）	▲ 17.8	▲ 14.4	▲ 5.8	▲ 9.1	▲ 12.7	▲ 4.8	▲ 13.5	▲ 19.5

<資料>県信用保証協会

(4) 円相場**12月 = 119.40円/ドル**

*前月差： 3.18円安

（東京・銀行間直物中心・平均）

*前年同月差： 15.94円安

<概況>

12月の東京外国為替市場での対ドル平均円相場（銀行間直物）は119.40円で、前月と比べて3.18円の円安となり、5か月連続で円安となった。

<最近の動き>

	26年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均相場（円）	101.79	102.05	101.72	102.96	107.09	108.06	116.22	119.40
前月差（円）	▲ 0.77	0.26	▲ 0.33	1.24	4.13	0.97	8.16	3.18
前年同月差（円）	0.71	4.62	2.01	5.09	7.85	10.21	16.19	15.94

▲…円高

（注）東京外国為替相場・銀行間直物中心相場・平均

3 企業経営**企業倒産件数****12月 = 22件**

*前年同月比： 26.6%減

<概況>

12月の負債総額 1,000万円以上の企業倒産件数は22件、負債総額は3,941百万円といずれも前年実績を下回った。

原因別にみると、既往のシワ寄せ、販売不振を原因とするいわゆる「不況型倒産」が17件と全体の77.3%を占め、205か月連続して50%以上となっている。

<最近の動き>

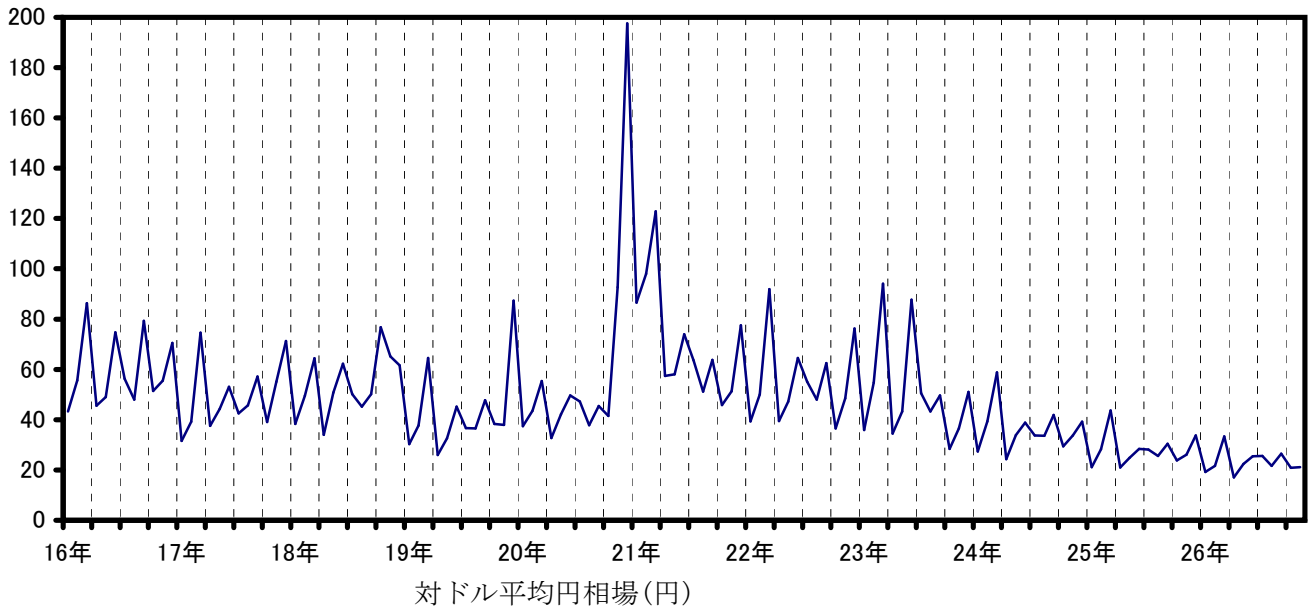
	26年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
倒産件数（件）	19	31	28	25	31	30	24	22
前年同月比（%）	▲ 42.4	▲ 3.1	▲ 12.5	▲ 7.4	63.1	▲ 11.7	▲ 29.4	▲ 26.6
うち不況型倒産件数（件）	17	25	24	22	28	20	24	17
負債総額（百万円）	3,087	4,056	4,204	4,690	7,686	3,183	2,935	3,941
前年同月比（%）	▲ 54.4	▲ 5.8	▲ 9.8	▲ 41.0	18.5	▲ 61.3	▲ 29.9	▲ 34.1

<資料>（株）東京商工リサーチ静岡支社

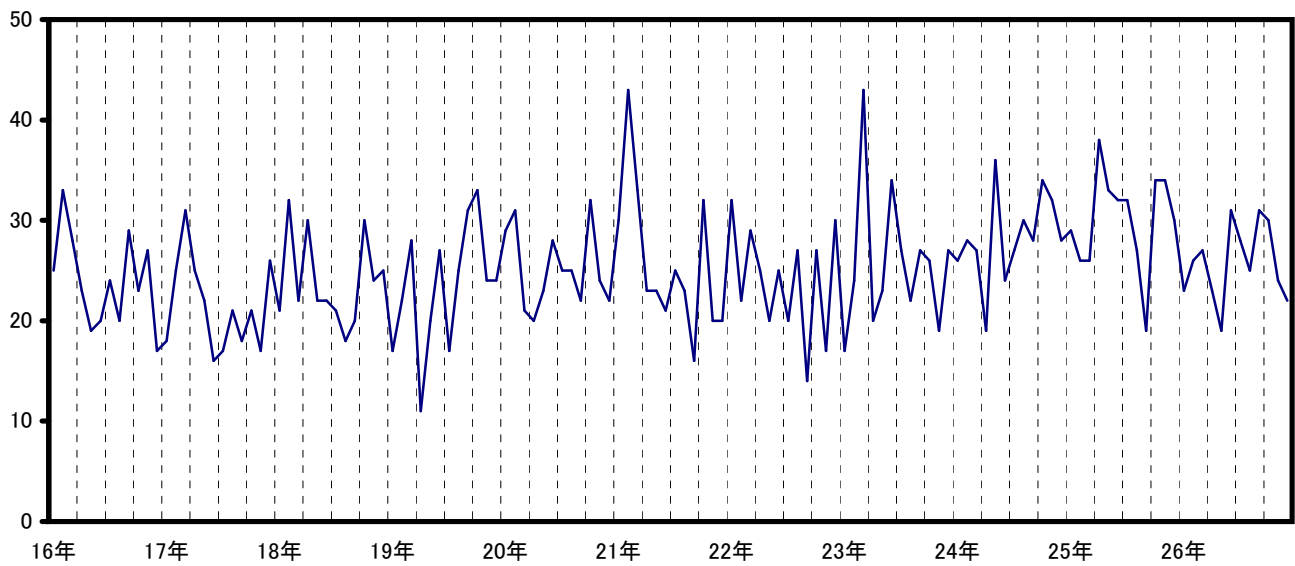
<過去10年間の推移>

信用保証協会保証承諾金額(十億円)

<資料>県信用保証協会



<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支社



Ⅲ 平成26年11月を中心とした静岡県主要産業の動向

業 種	産 業 動 向
二 輪 車 二輪車部品	<p>11月の国内二輪車生産台数は、52,627台（前年同月比 0.2%減）で、2か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>出荷台数では、国内は32,160台（同 3.1%増）で、2か月連続で前年実績を上回った。車種別では、軽二輪車（126cc～250cc）が2,584台（同29.9%減）、小型二輪車（251cc以上）が2,187台（同32.7%減）と前年実績を下回る中、原付第二種（51～125cc）は8,509台（同51.8%増）と大きく前年実績を上回った。</p> <p>輸出向けも42,935台（同 9.1%増）で、2か月ぶりに前年実績を上回った。車種別では、特に小型二輪車が35,362台（同17.2%増）と好調であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
自 動 車 自動車部品	<p>11月の自動車国内生産台数は743,289台（前年同月比 12.2%減）となり、5か月連続で前年同月を下回った。また、輸出は368,113台（同 11.5%減）となり、4か月連続で前年同月を下回った。</p> <p>国内生産は、乗用車、トラックともマイナスとなっていることから、全体でも5か月連続でマイナスとなっている。</p> <p>輸出は、アジア向けが10か月ぶりにマイナスに転じたことに加え、欧州向けが3か月連続、北米向けが8か月連続でマイナスとなったことから、全体では4か月連続で前年同月を下回っている。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
電気機械	<p>11月の冷蔵庫の国内出荷額は、278億7,900万円（前年同月比23.4%減）、また、国内出荷台数は256千台（同22.7%減）となり、ともに2か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>11月のエアコンの国内出荷台数は、家庭向けが342千台（同36.3%減）で、7か月連続で前年実績を下回った。また、業務用も59千台（同 6.4%減）で、3か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>消費者の白物家電に対する消費マインドの底堅さは引き続きあるものの、消費税増税後の反動も続き、好調であった昨年に対し前年比で厳しいものになった。</p> <p>10月の携帯電話と公衆用 P H S を合わせた移動電話の国内出荷台数は、1,447千台（同25.0%減）と、6か月連続で前年実績を下回った。うち、スマートフォンは763千台（同34.0%減）であった。冬商戦モデルの発売が始まったことで、単月のスマートフォン比率は52.7%となり、10か月ぶりに5割を超えた。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本電機工業会、日本冷凍空調工業会、J E I T A / C I A J</p>
生産用 機械	<p>11月の工作機械の受注総額は、1,390億5,000万円（前年同月比 36.6%増）と、14か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>内訳をみると、外需は899億8,900万円（同 49.6%増）、内需が490億6,100万円（同 17.9%増）といずれも前年実績を上回った。</p> <p>円安を背景に、アメリカや中国を中心とした海外需要が好調である。一方で、県内中小企業からは、過度な円安による原燃料費のコストアップに苦しむ声も聞かれる。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本工作機械工業会、静岡県中小企業団体中央会</p>

業 種	産 業 動 向
楽 器	<p>11月の県内楽器メーカーの販売金額は、51億5,000万円（前年同月比19.6%減）で、2か月連続で前年実績を下回った。内訳は輸出向けが25億6,600万円（同 22.5%減）で、国内向けが25億8,400万円（同 16.5%減）であった。</p> <p>ピアノ生産台数は2,714台（同 8.1%減）で、2か月連続で前年実績を下回った。機種別では、アップライトピアノが1,724台（同 13.7%減）、グランドピアノが990台（同 3.6%増）であった。また、販売台数は、輸出向けが1,785台（同 1.8%増）、国内向けが1,394台（同 15.6%減）であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県楽器製造協会</p>
紙	<p>11月の紙・板紙の国内出荷高は、2,117千ト（前年同月比 5.4%減）で、8か月連続で前年実績を下回った。内訳は、紙は1,183千ト（同 6.1%減）で、8か月連続で前年実績を下回り、板紙も934千ト（同 4.6%減）で、3か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>品種別では、主力の印刷・情報用紙が、656千ト（同 7.1%減）と8か月連続で前年実績を下回った。ティッシュペーパー、トイレットペーパー等の家庭紙は、151千ト（同 2.6%減）と、3か月ぶりのマイナスとなった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本製紙連合会</p>
缶詰・飲料	<p>11月の県内生産量は、食缶類が国内向け857千箱（前年同月比 7.0%減）と、3か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>分類別でみると、水産缶（国内向け）は665千箱（同 2.0%減）と2か月ぶりに前年実績を下回ったが、うち主力であるツナ缶は492千箱（同 1.5%増）と、2か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>農畜産缶（国内向け）は191千箱（同 20.9%減）と、7か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>飲料缶類は、国内向けが6,943千箱（同 15.5%減）で、5か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡缶詰協会</p>
織 維	<p>11月の広幅織物の県内生産は、1,580千㎡（前年同月比4.7%減）であった。このうち、綿布が主体の一般広幅織物の生産は、1,537千㎡（同5.0%減）であり、別珍・コールテンの生産は、43千㎡（同6.7%増）であった。</p> <p>小幅織物の県内生産は、36千㎡（同23.5%減）であった。</p> <p>産地では、引き続き、生産量が減少傾向にある。このため、国内外の各種展示会へ出展し、新規需要・販路開拓を図っている。11月には、東京国際フォーラムで開催された国内最大級の服生地ビジネス商談会「プレミアム テキスタイル ジャパン」及び「JFWジャパン・クリエーション」に本県の関係5団体が参加した。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合、浜松織物協同組合</p>

業 種	産 業 動 向
家 具	<p>11月の全国百貨店での家具販売額は、61億9,000万円（前年同月比10.1%減）で、大型量販店での家具・インテリアの販売額は519億5,300万円（同5.9%減）であった。</p> <p>販売額が昨年度より減少した背景として、気温高などの影響により季節商品の売上が伸び悩んだことなどが挙げられる。</p> <p>こうした中、県内業界では、11月末に首都圏で開催された国際家具見本市に数社が出展し、全国に静岡家具をPRした。</p> <p>＜資料＞日本百貨店協会、日本チェーンストア協会、地域産業課</p>
小 売 業	<p>11月の県内百貨店の売上高は、前年同月比3.4%減となった。11月は前年に比べ休日が2日増加するなどプラス要素があった反面、平均気温が高めに推移したことでコートなどの冬物衣料の動きが鈍く、2か月連続の前年割れとなった。</p> <p>全国的にみると、大都市にある店舗では、富裕層の購買意欲の向上や外国人観光客の買い物需要を取り込んだことでプラスに転じる一方で、地方の店舗では、地方経済の回復の遅れもあり、前年実績を下回る状況が続いている。</p> <p>部門別では、主力の衣料品のうち、紳士服が2.0%減、婦人服が5.4%減、子供服が4.0%減となり、衣料品全体で4.8%減と2ヶ月連続で前年を下回った。</p> <p>靴、鞆等の身の回り品は5.3%減となった。</p> <p>消費税増税の影響を大きく受けた高額品のうち、美術・宝飾・貴金属は5.3%減となった一方、化粧品は3.8%増と2ヶ月ぶりに前年を上回り、好調だった。</p> <p>食料品は、物産展の開催で生鮮食品が15.0%増と大きく伸長したものの、菓子が5.8%減、その他食料品が9.6%減と伸び悩み、食料品全体で2.3%減と落ち込んだ。</p> <p>県内スーパーの景気状況は、「やや下向き」「下向き」と不調傾向であった。消費者の節約志向が高まっているほか、例年より気温が高かったことから、冬物衣料や鍋用商材など季節商品の動きが鈍ったことが影響した。</p> <p>県内商店街の来街客の状況については、「やや上向き」「横ばい」「やや下向き」と商店街によって分かれた。空き店舗が増え、今後の方向性に悩む商店街が増えている一方で、独自のイベントや個店の魅力アップなどの対策により、来客数を増やしている商店街もある。</p> <p>＜資料＞静岡県百貨店協会、静岡県地域産業課</p>
観 光	<p>11月の県内主要10観光施設の合計入込客数は約40万人で、前年同月比2.4%の減となった。地域別で見ると伊豆地域と富土地域が増加、その他の地域が減少している。</p> <p>主要有料道路（5路線）合計の通行車両は、約70万台で、前年同月比16.5%の増である。前月、前々月に引き続き、伊豆中央道の通行量が大幅に増加している。</p> <p>＜資料＞静岡県観光政策課</p>

= IVデータからみた県内主要産業 =

<二輪車>

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
完成車生産台数(台)	20,277	13,234	14,437	15,861	21,600	16,426	20,320	25,301	22,094
前年同月比(%)	20.3	8.2	16.4	24.8	22.5	12.0	12.3	29.0	9.6
KD輸出額(百万円)	876	1,224	1,056	1,209	1,110	956	1,265	1,018	1,151
前年同月比(%)	▲18.6	14.5	10.4	13.6	5.0	▲6.4	14.3	▲10.5	▲6.4

<楽器>

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生産総額(百万円)	3,126	4,509	4,365	4,702	4,759	3,332	3,852	3,846	3,429
前年同月比(%)	▲6.9	25.9	18.1	30.7	27.7	9.5	15.6	▲2.2	▲12.1

<缶詰>

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
食缶生産高(千ケース)	978	961	919	906	971	875	873	903	859
前年同月比(%)	▲2.1	▲1.5	▲12.6	▲14.1	▲4.4	4.9	▲7.6	▲0.9	▲7.1
うち水産缶詰(%)	▲7.0	▲3.2	▲15.5	▲13.6	▲3.1	8.9	▲6.8	5.8	▲2.2
農畜産缶詰(%)	13.0	3.6	▲3.2	▲15.7	▲8.0	▲5.2	▲10.3	▲18.9	▲20.9
飲料缶生産高(千ケース)	8,565	8,725	9,268	9,101	8,954	8,195	6,170	6,252	6,943
前年同月比(%)	▲1.1	2.2	8.6	6.5	▲11.6	▲11.9	▲27.5	▲22.1	▲15.5

<繊維>

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
広幅織物(千㎡)	1,577	1,545	1,257	1,232	1,170	1,094	1,299	1,430	1,580
前年同月比(%)	▲3.0	1.1	▲5.6	▲12.6	▲10.1	▲4.6	▲3.6	▲5.9	▲4.7
小幅織物(千㎡)	38	35	38	39	39	39	42	38	36
前年同月比(%)	▲4.0	▲11.5	▲24.1	▲19.0	▲19.4	▲17.6	▲11.7	▲19.4	▲23.5

<観光>

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
観光施設(10施設)入込 (千人)	369	650	895	444	261	565	433	357	401
前年同月比(%)	▲19.4	53.7	56.3	20.1	▲20.6	1.9	▲1.0	▲5.2	▲2.4
有料道路(5路線)通行量 (千台)	762	671	762	628	702	841	679	649	696
前年同月比(%)	12.8	21.8	26.7	19.7	12.0	7.8	18.5	17.7	16.5

本書で掲載している県内の主要統計資料の時系列（過去10年間）のデータは静岡県公式ホームページの「統計センターしずおか」で公表しています。

静岡県公式ホームページ⇒統計・調査⇒統計センターしずおか⇒県内主要統計指標
<http://toukei.pref.shizuoka.jp/>

需要面	生産面	雇用面	その他
・百貨店販売額	・産業用大口電力消費量	・有効求人倍率	・国内企業物価指数
・大型小売店販売額	・鉱工業生産指数	・雇用保険受給者実人員	・消費者物価指数
・自動車新規登録台数	・鉱工業在庫指数	・完全失業率	・県内金融機関貸出残高
・新設住宅着工戸数		・所定外労働時間指数	・信用保証協会保証金額
・清水税関支所管内輸出額			・企業倒産件数
・清水税関支所管内輸入額			

提供いただいている資料

資料名	提供元	ホームページアドレス
公共工事請負金額	東日本建設業保証（株）	http://www.ejcs.co.jp/region/index.html
設備投資	日本銀行静岡支店	http://www3.boj.or.jp/shizuoka/kouhyou/hyousi_f.html
貸出約定金利		
国内企業物価指数	日本銀行	http://www.boj.or.jp/type/statat/boj_stat/index.htm
円相場		

参考となる全国の資料等

資料名	提供元	ホームページアドレス
鉱工業生産指数	経済産業省	http://www.meti.go.jp/statistics/index.html
大型小売店販売額		
輸出入	財務省	http://www.mof.go.jp/siryou.htm
国際収支		
機械受注	内閣府	http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/juchu.html
消費者物価	総務省統計局	http://www.stat.go.jp/
家計調査		
完全失業率	厚生労働省	http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/index.html
有効求人倍率		

静岡県月例経済報告
平成27年1月号 通巻465号

発行 静岡県経済産業部
平成27年1月

編集 経済産業部管理局政策監
〒420-8601
静岡市葵区追手町9-6
TEL 054-221-2650
FAX 054-221-3217
E-mail keisan-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp
URL <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>